

定量的磁化率マッピングMRIの検討

研究責任者：富樫 かおり、実施責任医師：伏見 育崇

概要：磁化率強調画像はMRI撮影においてルーチン撮影とされるような基本的な撮影方法であり、高血圧などに伴った脳内の微小出血の検出、石灰化の評価などに用いられる。近年この磁化率強調画像を定量的に評価できるアルゴリズムが開発され、定量的磁化率マッピングと呼称されている。MRI装置の静磁場の違いによる定量的磁化率マッピングを検討する。

対象：説明のもと研究に参加する同意の得られた健常な成人ボランティア、肝胆膵・移植外科医の協力を得て、同意が得られた入院中の肝機能障害患者の皆様

研究期間：2019年6月まで